



たま病院ニュースレター

TAMA Hospital News Letter 2019



失神について

循環器内科 副部長 宮崎 秀和

失神とは？

脳全体の血流が一時的に低下して引き起こされる意識消失のことです。通常、数分以内に後遺症なく回復します。一般的には「気を失う」、「脳貧血」などと呼ばれます。脳血流低下の程度により症状は様々で、程度が強い場合は意識消失後に痙攣様の症状が現れることがあります。軽い場合には意識は失わずに「ふらふらする」、「目の前が一瞬真っ暗になる」等の症状（前失神状態）となります。

年間1,000人当たり約6人が失神を発症します。その多くは自律神経の一時的な異常による反射性失神（神経調節性失神）で、寿命に影響がなく危険性の低い失神です。心臓の病気（特に不整脈）が関与する心原性失神もあり、その後の寿命や心臓病の発現と大いに関係するため危険性の高い失神です。心原性失神は早期の診断および早期の治療が不可欠です。また、危険性の低い失神であっても失神を繰り返す、失神時にケガを負う、失神の経験が一度だけでも不安のため生活に制限がかかるような場合には、危険性の高い失神と同様に診断・治療が必要となります。

失神の診療について

一時的な症状で回復後には症状が無いこと、原因が多岐にわたり見つけることが難しいことなどから、失神を診療する診療科は曖昧です。ヨーロッパには失神診療部門（Syncope Unit；SU）があり、失神診療の中心的な役割を担っています。多くのSUは不整脈診療の経験が深い循環器内科医により運営され、その有用性が報告されています。しかし、日本では失神診療を専門とする医師やSUは大学病院を含めても非常に少ないのが現状です。

多摩病院では複数の診療科（総合診療内科・循環器内科・脳神経内科など）が連携して失神の診療に当たっています。最初に外来で可能な検査を用いて原因検索を行います。心原性失神が疑われるにも関わらず診断がつかない場合は、カテーテル検査（冠動脈造影検査、心臓電気生理検査など）や植込み型心臓モニター（Insertable Cardiac Monitor；ICM）の植込みなどを行います。



部門紹介

循環器内科



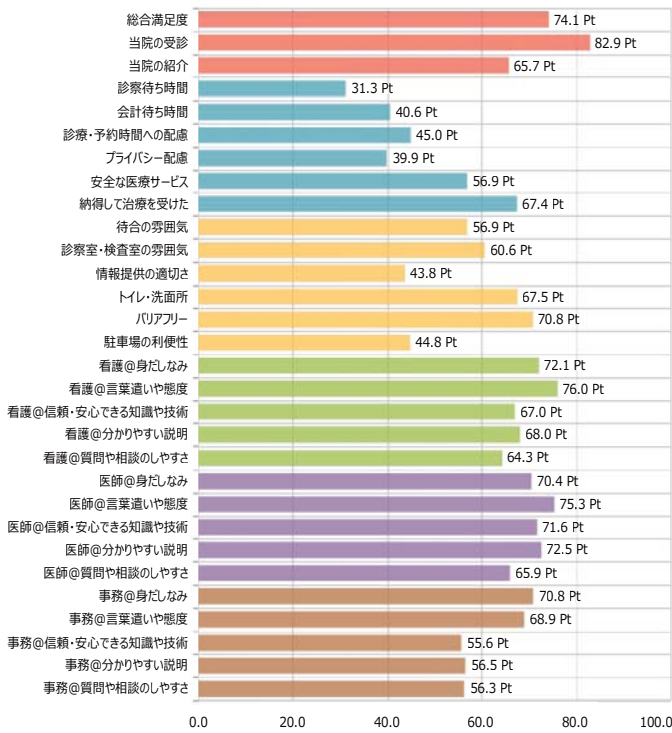
当科では虚血性心疾患、不整脈、心不全などの心臓・血管疾患を対象としており、カテーテルを用いた血管内治療を中心に日常診療を行っています。

2018年は、冠動脈形成術が297件、下肢動脈の形成術が98件、ペースメーカー手術が28件、心筋焼灼術が14件でした。急性期医療施設として、急性冠症候群（急性心筋梗塞など）に対する緊急カテーテル治療にも迅速に対応できる体制を整えています。

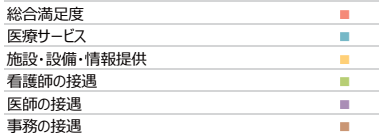
地域における基幹病院として、近隣の医療機関と密に連携を取りながら、地域に根付いた循環器疾患の診療を行うことを目標としています。

【多摩病院：患者満足度調査結果】 実施日（2019年9月18日）

<外来患者>

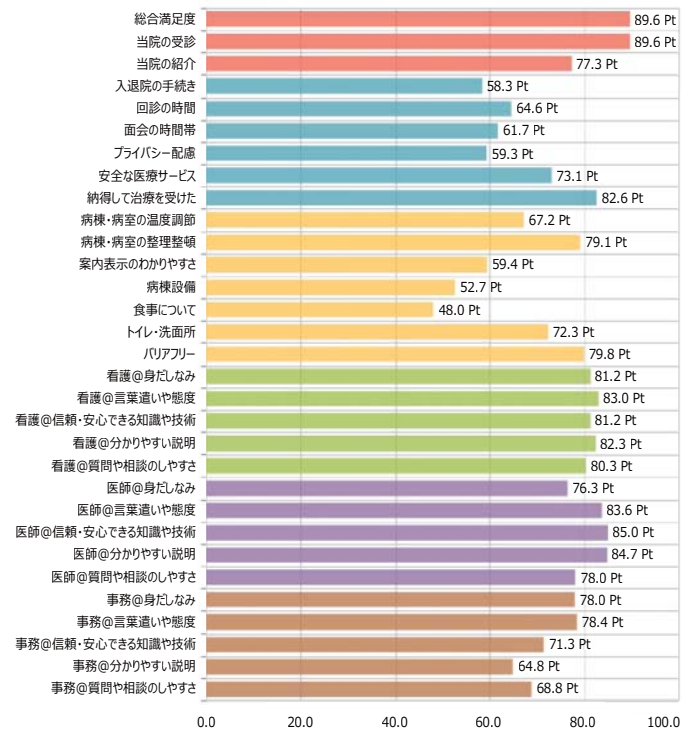


総合満足度 **74.1** ポイント

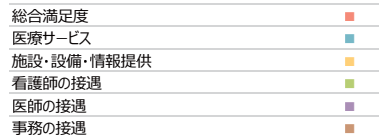


最もポイントが高いのは、「当院の受診」の82.9ポイントです。
次いで「看護@言葉遣いや態度」の76.0ポイント、「医師@言葉遣いや態度」の75.3ポイントとなっています。
最もポイントが低いのは、「診察待ち時間」の31.3ポイントです。
※ポイントは小数点第一位で四捨五入しています。

<入院患者>



総合満足度 **89.6** ポイント



最もポイントが高いのは、「総合満足度」「当院の受診」の89.6ポイントです。
次いで「医師@信頼・安心できる知識や技術」の85.0ポイント、「医師@分かりやすい説明」の84.7ポイントとなっています。
最もポイントが低いのは、「食事について」の48.0ポイントです。
※ポイントは小数点第一位で四捨五入しています。

★ アンケートへのご協力ありがとうございました. ★